

地域経済をリードする 産業栽培メディア

◎コロンバス8月号増刊
昭和50年3月26日第三種郵便物認可
平成27年7月27日発行 通巻635号

コロンバス

MONTHLY COLUMBUS

ビジネスの新大陸を発見!!

2015 AUG 700円

寺が消えても地域は残るか!?

寺院と地域

人口減で「墓じまい」が進行する!?

[大地の顔]
木更津に
**有機農業を
核とした
循環型社会を
つくりたい**

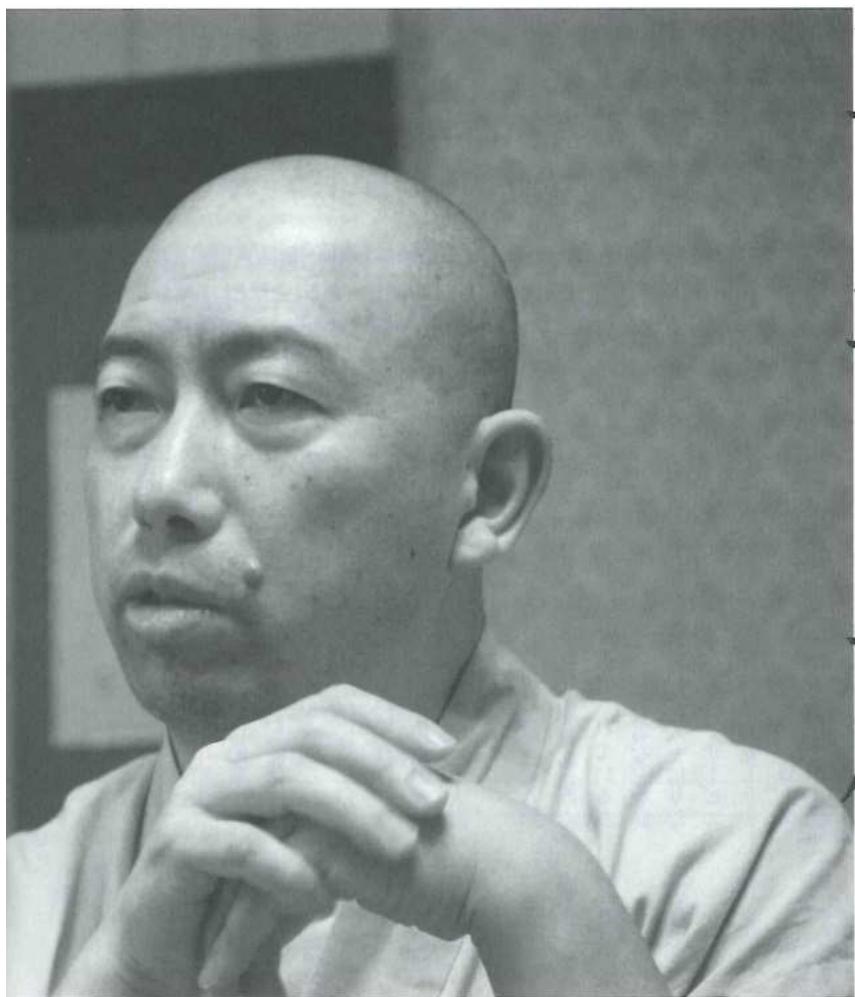
豊増洋右
耕す 木更津農場 農場長

鵜飼秀樹 白経B.P. 社記者
〔特選論柄〕
寺院消滅で失われる地域コミュニティ
寺院経営の実態から
日本経済を考える

〔特別編集顧問 浅野純次のクローカル人間図鑑〕
檀家や地域住民にとって
寺院とはどのような
存在であるべきか
平井道修 全生庵 住職

〔アジア進出の達人・池田博義のGlobal Channel〕
電子競争入札や共同購買を活用して
購買コストを平均で20%以上削減
古市勝久・株購買戦略研究所 代表取締役

〔中山間地域レポート〕
はばたけ田園回帰の翼
小野文明・中山間地域フォーラム 運営委員



平井正修

全生庵 住職

ひらい・しょうしゅう

明治16年、山岡鉄舟居士が明治維新で国事に殉じた人々の菩提を弔うために建立した臨済宗国泰寺派全生庵の第7世現住職。1990年、学習院大学法学部卒、その後約10年にわたる静岡県三島市龍沢寺専門道場での修行を経て現職。武士道の志と禅の心などをテーマにした講演のほか、警視庁・人事院・各種官庁および企業の研修での坐禅会も好評。

檀家や地域住民にとって 寺院とはどのような存在であるべきか

全国的な少子高齢化を背景とした檀家数の減少に加えて、都市部では寺と檀家の結びつきが薄れる「寺離れ」も寺院経営の課題となっている。そんななか東京都台東区谷中の名刹、全生庵の住職である平井正修氏は「時代の変化に合わせて、寺院のあり方も変わっていく」と話す。同寺での取り組みやこれからのお寺のあり方について話を伺った。

檀家減少と「寺離れ」にともない
寺院のあり方にも変化が必要
浅野純次・本誌特別編集顧問
少子高齢化、人口の社会移動と
ともに寺院の檀家数も減少の一
途をたどっており、とくに地方
の寺院は厳しい経営を強いられ
ています。平井さんが住職を務
めておられる全生庵は台東区谷
中の地で130年以上もの歴史
を歩んでこられたわけですが、
都市部の寺院を中心に檀家との
関係からお話しいただけますか。
平井正修・全生庵住職 檀家数
の減少については当然、過疎・

「地の力」を検証する!!

特別編集顧問・浅野純次の
18

「グローカル」
人間図鑑

争原理が薄れ、布教精神が大きく減退したのかもしれません。

浅野 住職の生計費、寺の維持費が変わってきたことも無視できませんね。

平井 明治時代以降、僧侶の妻帯が許可されたため、寺の住職は家族を持つことになり、数軒の檀家の支援で自分ひとりの口を糊すればよいというわけにはいかなくなってしまった。

平井 いかなくなつてしましました。一家を食べさせていくために多くの檀家が必要となり、それを

念頭において寺院経営が求められるようになつたのです。こう

するごく個人的で自由なもので増えつつあるのも、明らかに苦とされています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務にすれば人口減の影響を受けるでしょうが、現在問題になつてゐるのはいわゆる「寺離れ」です。地方の集落では寺院が地域コミュニティの中心に位置してきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

浅野 昨今、民営の霊園の数が少子高齢化の著しい地方においてより深刻な状況になつていています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務にすれば人口減の影響を受けるでしょうが、現在問題になつてゐるのはいわゆる「寺離れ」です。地方の集落では寺院が地域コミュニティの中心に位置してきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

平井 寺院の経済基盤は檀家の支援があつて成り立つものなので、当寺にかぎらず、都市部の寺院にとつてはいかに檀家との結びつきを深め、維持するかと

増え、ロッカー式納骨堂などが増えつつあるのも、明らかに苦とされています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務に変化が生じてきたからだと思ひます。より手軽な方法でお墓を持つという感じになつてきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

平井 寺院の経済基盤は檀家の支援があつて成り立つものなので、当寺にかぎらず、都市部の寺院にとつてはいかに檀家との結びつきを深め、維持するかと

増え、ロッカー式納骨堂などが増えつつあるのも、明らかに苦とされています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務に変化が生じてきたからだと思ひます。より手軽な方法でお墓を持つという感じになつてきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

平井 寺院の経済基盤は檀家の支援があつて成り立つものなので、当寺にかぎらず、都市部の寺院にとつてはいかに檀家との結びつきを深め、維持するかと

増え、ロッカー式納骨堂などが増えつつあるのも、明らかに苦とされています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務に変化が生じてきたからだと思ひます。より手軽な方法でお墓を持つという感じになつてきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

平井 寺院の経済基盤は檀家の支援があつて成り立つものなので、当寺にかぎらず、都市部の寺院にとつてはいかに檀家との結びつきを深め、維持するかと

増え、ロッカー式納骨堂などが増えつつあるのも、明らかに苦とされています。都市部の寺院もい提寺との付き合いや護持義務に変化が生じてきたからだと思ひます。より手軽な方法でお墓を持つという感じになつてきたので、檀家は寺のすぐ近くに住んでおり、関係も密接です。一方、都市部の寺院の場合は檀家が広い範囲に点在しているので日常的にコミュニケーションをとる機会が少ないうえに、お布施の習慣や儀式などに対する世人の考え方が大きく変化し、精神的な意味でもしだいに身近な存在ではなくなつてしまつります。

平井 ひとつの日本人の死

この先、どのくらいの年月で争原理が薄れ、布教精神が大きく減退したのかもしれません。そうなるかはわかりませんが、いずれは法要の際にいただくお布施のみに頼つた経営スタイルは成立しなくなると私は考えていました。檀家制度を会員組織としてあらためて整え、寺の運用費や積み立ての修繕費を明確化していく時代がやつてくるのではないかでしょうか。

浅野 寺院のあり方や檀家とのかかわり方が変わつていくことは、いえ信仰の拠り所としての機能は残るはずです。しかし、法事・法要や墓参りなどの儀式行事をあまり重視しない人が増えているだけに、宗教や信仰が現代人にとってどういう意味を持ち続けるのか気になります。

平井 ひとつの日本人の死



浅野 純次

あさの・じゅんじ

経済俱楽部理事、石橋湛山記念財団理事。東洋経済新報社「会社四季報」「週刊東洋経済」各編集長を経て、1995年社長、2001年会長を歴任。近著に『多様性と個の確立』一時評と書評から時代を読む(東方通信社)

生観が戦後数十年の復興と経済成長の過程で大きく変わってしまったこと、それが深く関連していると思います。物質的な豊かさをひたすら追い求め、実際にそれを成し遂げた日本の社会においては、とにかく「生きてること」だけに至上価値を見出し、死や死後の世界のことが軽視されるようになってしまいました。極端な話、法事をさぼつても「亡くなつた当人は怒りも嘆きもしません。生きている人にとっては、死んだ人はもう目に見えないしそこにいないからです。であれば、生きている人や目に見えるモノを大事にすべきだ」というのはある意味、正論なのかもしれません。

ところが、世の中といふものは目に見えないもの、つまり心で成り立つてゐるわけです。友人や知人との付き合いはモノではなく心と心の交流によつて続いていきます。親子や兄弟との関係たつて、心なくして良好に保つことはできません。近年、人間にとつて不自然な延命治療や死を避けるためだけの再生医療など、医療技術の発展が猛スピードで進むなか、あらためて目に見えない心の役割が問われてゐると思います。

これからのお寺はあくまでも公益性を重んじて、

もっと地域のためにできること、

担える役割を模索していかなければなりません

「教えと儀式の両輪」を大事にする全生庵の取り組み

浅野 平井さんは官庁、企業などの研修での講演や坐禅会などに力を入れておられますね。そうした場でまさに今おっしゃった目に見えない心の重要性を説いておられるのだと思いますが、もうかた参加者の反応はいかがでしょうか。

平井 热心な方が多いですね。講演などをキッカケに日常的に坐禅会に参加されるようになつた経営者の方もたくさんいます。宗教においては「教えと儀式の両輪」が重要ですので、教えをシッカリ心中に根付かせるために、多くの人に儀式や行事に参加してほしいと思います。

浅野 全生庵ではどのような儀式や行事を体験することができるのでですか。

平井 午前5時から7時の間で自由に参加いただける早朝坐禅会は日曜以外の毎朝開いています。初めて坐禅をされる方には坐り方などの指導がありますので、まずは午後6時から8時の日曜坐禅会に参加してもらつています。初めての方のみ完全予約制となつていますが、それ以外の方については今述べた時間帯であれば、誰でも自由に参加

できます。また、依頼があれば体验坐禅会などもお引き受けしています。

子どもの頃から教えや儀式を体に染み込ませる機会を大事にしてほしい、という思いから、

毎月「こども論語塾」という講座も開いています。1、2歳から小学校低学年まで幅広い年齢層の子どもたちが毎回20人ほど集まり、1時間ほど論語の素読をした後、15分ほど坐禅の時間をとります。親にもかならず参加してもらつて、いるのですが、

「普段、子どもたちはなかなかジソとすることがないのに、お寺に来ると身が引き締まるようで、落ち着いています」と好評です。

浅野 昔は家には仏間があつて、

「仏壇の前では居住まいを正します」と親からいわれたものですが、核家族化が進む現代、仏壇に手を合わせたり、お線香をあげたりといったごく日常的な儀式体験の機会も失われてしまつています。

平井 だからこそ、寺院として

はできるだけ広く門戸を開き、儀式体験の場を提供したいと考えています。

浅野 最後に全生庵と地域とのかかわりはいかがでしょう。かかわりはいかがでしょうか。全生庵といえば山岡鉄舟ですが、同時に落語家の三遊亭円朝師匠

の墓所があり、円朝遺愛の幽霊画五十幅が所蔵されているそうですね。毎年夏にそれらをもとに開催する幽霊画展は、地域の名物イベントになつていてるとか。

平井 地元の人からの「谷中を盛り上げたい」という依頼を受けてはじめたのですが、もうかれこれ約30年になります。今年はさらに東京藝術大学美術館からのお誘いがあつて、芸大と当

寺と合同で開催（7月22日～9月13日、東京藝術大学美術館）することになりました。

浅野 地域を盛り上げるための催しを継続・累積させていくことで、寺院の存在感が明確になります。

平井 葬式や法事のときだけ檀

家や地域とかかわるのは、これまでの寺院経営は確実に立ち行かなくなつてしまつてしまつています。

平井 無税で活動できる宗教法人であるからには、あくまでも公益性を重んじて、もっと地域のために寺院だからこそできることが、

担える役割を模索していくなければなりません。当寺も自分たちに何ができるのかを日々模索しています。

浅野 寺院の今後のあり方について、より議論が深まつていくことを期待したいと思います。

ありがとうございました。